港論（こうろん）

国際派の政治家

比デベネシア元下院議長

昨年のクリスマス、私はフィリピンのマニラにいた。フィリピンの下院議長（日本の衆院議長にあたる）を5期務め、元大統領候補でもあり、与党ラカス党の幹事長を務めた政治家ジョー・デベネシアさんの75歳の誕生パーティーに招待されたからだ。

デベネシアさんとのご縁は長い。最初は、15年前にフリージャーナリストの若宮清さんの紹介で会った。若宮さんはユニークな人だ。彼が、今のフィリピン大統領ノイノイ・アキノ氏の父親のニノイ・アキノ氏の私設秘書を務めていた1983年、ニノイ氏が大統領選に出馬すべく帰国したときに兵士に射殺された事件があったが、その同行者として有名な人だ。

私とデベネシアさんの関係が深まったのは、私がパーソナリティーをしているテレビ番組「石井至の為替哲学3・0」で、一昨年、デベネシアさんをインタビューしてからだ。以降、彼の自宅に、札幌に住む私の母親を連れて遊びに行ったこともある。

デベネシアさんは並の大物政治家とはレベルが違う。活動範囲はフィリピンに限らない。たとえば2000年にICAPP（国際アジア政党会議）という組織を立ち上げた。これは、各国の与党のみならず野党も参加するユニークな取り組みで、52カ国から300を超える政党が参加する。日本からも、民主党、自民党、公明党、社民党、共産党が参加している。世界各地で政権交代が起こっている現在、政権与党だけでなく野党も含めての交流が大切だが、それを一足前から知っていた感がある。

彼は、自分の携帯から世界の要人に直接、電話をかけ、話をつけている。

彼の誕生パーティーには約700人が出席した。アジアからは、パキスタン元首相のムシャヒド氏、カンボジアの副首相ソク・アン氏、ネパール前首相のネパール氏らが訪れ、遠くはメキシコやアゼルバイジャンからも政治家がお祝いに駆け付けた。

日本の政治家で、これだけ海外からお祝いに駆け付けてもらえる人はいないだろう。日本にも一人くらいそういう政治家がいてもいいのではないかと私は思う。

（石井　至）

いしい・いたる　石井兄弟社
社長　東京在住

釧路新聞２０１２年1月２９日